

平成19年度 後期

教育発達科学研究科 高等教育マネジメント分野

高等教育内容論－学習支援・FD

(水曜7限 担当：近田政博)

シラバス

平成19年度後期 高等教育内容論（学習支援・FD）

*授業の基本方針

- ・受講生のみなさんが知的刺激を得られるような努力をします。
- ・みなさんの職業経験を授業の中に活かせるような工夫をします。
- ・みなさんが授業で得た知見を仕事に活かせるよう、授業内容・方法を工夫します。
- ・明確な学習目標を設定し、これに達成するための課題を用意します。
- ・教員と受講生、および受講生間のコミュニケーションを促進します。
- ・小さな課題を積み重ねることによって、問題意識を深められるような工夫をします。
- ・受講者の多様性に配慮します。
- ・努力が正当に評価されるように、公正な成績評価を行います。

*クラス的环境

夜遅いので、飲み物、軽食を持ち込んでもけっこうです。リラックスしてやりましょう。寒すぎたり暑すぎたりしたとき、教員の声が聞き取れないとき、他の受講者によって授業が妨げられたと感じたとき、その他教室の環境に不快を感じたときは、遠慮なく教員に言ってください。できる限りの快適な授業環境づくりを心がけます。

*授業の開始・終了時刻、休講について

授業は20:00～21:30まで行います。特別な理由がない限り延長はしません。
やむを得ない理由によって休講、時間変更するときは、あらかじめ連絡します。

*日常の連絡方法について

授業に関する連絡事項をメールでお伝えします。まずはご都合の良いアドレスから近田宛にメールを下さい。そのアドレスを授業連絡用に登録します。

*遅刻・欠席について

遅刻や欠席をする場合は、できるだけ事前にメール・電話などで連絡下さい。フォローアップのための支援をします。

*試験、追試験、再試験について

この授業は試験、追試験・再試験を行いません。授業中の課題提出で総合評価します。

*オフィスアワーについて

この授業のオフィスアワーは特に決まった時間帯を設けていません。下記のメール・電話で連絡をください。随時対応します。研究室への急な訪問には、十分に対応できないこともありますので、ご了承ください。

担当教員：近田政博（高等教育研究センター准教授）

chikada@cshe.nagoya-u.ac.jp 研究室直通 789-5692

後期 水曜 7限 2単位

場所：文系総合館 5階 高等教育研究センター会議室（509号室）

授業の概要と目的

この授業では、あなたが属する大学における学習支援の特徴を理解し、改善すべき点を提案できるようになることを目指しています。この授業を受けることによって、あなたは次のことができるようになるでしょう。

- ・現代の大学生の学習状況や学習ニーズを理解し、自大学の学生の状況について説明できるようになる
- ・学習支援に関するさまざまな課題、たとえば授業評価、FD、初年次教育、教授法、研究指導、TA制度、職員の能力開発などについて理解を深め、自大学のこれらの問題について改善方法を提案できるようになる

授業の内容

この授業は、第1単元：現代の大学生の学習状況・学習意識、第2単元：学生に対する学習支援（特に初年次教育、研究指導）、第3単元：組織的な教育改善への支援(FD)、第4単元：職員の能力開発への支援(SD)、という4つの単元で構成されています。各単元は、予習教材に即した基本レクチャー→自分の大学についての調査・発表→自分の大学の改善策について意見交換、というサイクルになっています。各単元ではおおよその内容を扱います。

第1単元：現代の大学生の学習状況・学習意識

- ・現代の大学生の学習意識はどうなっているか？
- ・大学は学生のことをどのくらい把握しているか？
- ・望ましい授業評価アンケートとは？

第2単元：学生に対する学習支援

- ・初年次教育はなぜ重要なのか？
- ・指導教員と学生の双方が満足できる研究指導とは？
- ・学生の学習意欲を高めるにはどうしたらよいか？

第3単元：組織的な教育改善への支援

- ・TA制度の問題点はどこにあるのか？
- ・FDの効果を高めるための具体的方法
- ・FDをどのように組織化したらよいか？

第4単元：職員の能力開発への支援

- ・現在の大学職員養成の何が問題なのか？
- ・大学職員論に関する先行研究
- ・まずはどこから改善すればよいか？

教科書・参考文献

初回もしくは2回目の授業で予習教材集を配布します。最新の国際的動向をフォローした文献を精選します。授業までに指定された教材を読んで、コメントを提出して下さい。コメントとは、自分自身の意見とそう考える理由・根拠のことです。重要な資料は随時配布します。

成績評価の方法と基準

4つの単元ごとに、①出席状況と予習教材についてのコメント課題、②自大学の状況について調査・発表課題、意見交換があります。この2つを総合評価します。各単元は次のA（2点）とB（2点）の4点満点です。4点×4単元＝16点満点になります。成績評定は、13点～：優、11～12点：良、9～10点：可、8点未満：不可とします。

A：出席状況と予習課題コメント

- 2点：出席状況が良好で、コメントに自分の意見が明瞭に述べられている
- 1点：出席状況が不十分、もしくはコメントに自分の意見が明確に述べられていない
- 0点：出席状況が悪い、もしくはコメント未提出

B：調査・発表、改善案の提示、意見交換

- 2点：発表内容が優れており、他者の発表に適切なコメントができる
- 1点：発表内容が不十分、もしくは他者の発表に対するコメントが不十分
- 0点：発表内容に大きな問題がある、もしくは他者の発表に対するコメントがない

履修条件・関連する科目等

- ・学生の学びを支援する大学づくりを考えている方を歓迎します。
- ・学習支援、授業評価アンケート、教員の教育能力開発(FD)、職員の能力開発(SD)、初年次教育、研究指導、ティーチング・アシスタント(TA)制度、大学院問題などに関心のある人の参加を歓迎します。

履修上の注意

- ・研究科の時間割では、この授業の場所は文系総合館401号室と表示されていますが、文系総合館5階の509号室（高等教育研究センター会議室）に変更します。
- ・初回（10月3日）のオリエンテーションで、授業の進め方について詳しく説明します。

授業計画

(一部変更されることもあります)

回数	日付	授業内容	当日までの課題
1	10月 3日	教員・受講者の自己紹介、授業の進め方、シラバスの説明	
2	10月10日	第1単元：現代の大学生の学習状況と学習意識① 基本レクチャー ・現代の大学生の学習意識はどうなっているか？ ・大学は学生の何をどのくらい把握しているか？ ・望ましい授業評価アンケートは？	次の文献を読んで、前日までに近田と受講者全員に各200字前後のコメントをメールで送る。①河合塾(2003)、④近田政博(2007)
3	10月17日	第1単元：現代の大学生の学習状況と学習意識② 自分の大学について調査・発表	自大学の学生の学習状況と学習意識について調査し、その実情と問題点をA4用紙で2枚以内にまとめ、前日までに近田と受講者全員にメールで送る。
4	10月24日	第1単元：現代の大学生の学習状況と学習意識③ 改善策を意見交換	自大学の学生の学習状況と学習意識の把握方法・内容について、改善案をA4用紙で1枚にまとめ、前日までに近田と受講者全員にメールで送る。
5	10月31日	第2単元：学生に対する学習支援① 基本レクチャー ・初年次教育はなぜ重要なのか？ ・学生の学習意欲を高めるにはどうしたらよいか？	次の文献を読んで、前日までに近田と受講者全員に各200字前後のコメントをメールで送る。⑦⑧名大高等教育研究センター(2007)、⑨濱名篤(2007)
6	11月 7日	第2単元：学生に対する学習支援② 基本レクチャーつづき ・指導教員と学生の双方が満足できる研究指導とは？	次の文献を読んで、前日までに近田と受講者全員に各200字前後のコメントをメールで送る。⑫ジェームス&ポールドウィン(1999)
7	11月14日	第2単元：学生に対する学習支援③ 自分の大学について調査・発表	自大学の学習支援の方法・内容について調査し、その実情と問題点をA4用紙で2枚以内にまとめ、前日までに近田と受講者全員にメールで送る。

回数	日付	授業内容	当日までの課題
8	11月21日	第2単元：学生に対する学習支援④ 改善策を意見交換	自大学の学習支援の方法・内容について、改善案をA4用紙で1枚にまとめ、前日までに近田と受講者全員にメールで送る。
9	11月28日	第3単元：教育改善への組織的支援① 基本レクチャー ・TA制度の問題点はどこにあるか？ ・国際的なFDの潮流	次の文献を読んで、前日までに近田と受講者全員に、各200字前後のコメントをメールで送る。⑭北野秋男(2003)、⑮名大高等教育研究センター(2005)
10	12月5日	第3単元：教育改善への組織的支援② 基本レクチャーつづき ・FDの効果を高めるためのノウハウ ・FDをどう組織化したらよいか	次の文献を読んで、前日までに近田と受講者全員に、各200字前後のコメントをメールで送る。⑯近田政博(2007)
11	12月12日	第3単元：教育改善への組織的支援③ 自分の大学について調査・発表	自大学の教育改善への組織的支援について調査し、その実情と問題点をA4用紙で2枚以内にまとめ、前日までに近田と受講者全員にメールで送る。
12	12月19日	第3単元：教育改善への組織的支援④ 改善策を意見交換	自大学の教育改善への組織的支援について、改善案をA4用紙で1枚にまとめ、前日までに近田と受講者全員にメールで送る。
13	1月16日	第4単元：職員の能力開発への支援① 基本レクチャー ・現在の大学職員養成の何が問題か？ ・大学職員論に関する先行研究	次の文献を読んで、前日までに近田と受講者全員に、各200字前後のコメントをメールで送る。⑰福留(宮村)留理子(2004)、⑱名大高等教育研究センター(2007)
14	1月23日	第4単元：職員の能力開発への支援② 自分の大学について調査・発表	自大学の職員の能力開発への支援について調査し、その実情と問題点をA4用紙で2枚以内にまとめ、前日までに近田と受講者全員にメールで送る。
15	1月30日	第4単元：職員の能力開発への支援③ 改善策を意見交換	自大学の職員の能力開発への支援について、改善案をA4用紙で1枚にまとめ、前日までに近田と受講者全員にメールで送る。

この授業で扱う教材の出典

ゴシック体はコメント作成を必要とする文献

第1単元 現代の大学生の学習状況・学習意識

- ① 河合塾(2003)『「学生による授業評価」事例研究会』19-21, 88-104 頁。
- ② 武内清(2005)「学修と生活のバランス」『IDE 現代の高等教育』No.473、13-17 頁。
- ③ 溝上慎一(2005)「大学新入生の学業生活への参入過程－学業意欲と授業意欲」『京都大学高等教育研究』第10号、67-87 頁。
- ④ 近田政博(2007)「現代の大学生」2007年度大学教員準備プログラム(名古屋大学)配付資料。
- ⑤ 近田政博(2007)「名大生の現状と学習支援のあり方」平成19年度前期全学教育担当教員FD全体会資料。

第2単元 学生に対する学習支援(初年次教育、研究指導など)

- ⑥ 近田政博(2006)「大学コミュニティへの適応を促進する新入生向け学習支援教材の開発－『名古屋大学新入生のためのスタディティップス』の事例より－」大学教育学会発表資料、18 頁。
- ⑦ 名古屋大学高等教育研究センター(2007)『名古屋大学新入生のためのスタディティップス① 「学識ある市民」をめざして』25 頁(別途配布)
- ⑧ 名古屋大学高等教育研究センター(2007)『名古屋大学新入生のためのスタディティップス② 自発的に学ぼう』67 頁(別途配布)
- ⑨ 濱名篤(2007)「日本における初年次教育の位置づけと効果」『カレッジマネジメント』145号、リクルート、4-9 頁。
- ⑩ 絹川正吉(2007)「学士課程教育における初年次教育」『カレッジマネジメント』145号、リクルート、22-25 頁。
- ⑪ 溝上慎一(2007)「アクティブ・ラーニング導入の実践的課題」『名古屋高等教育研究』第8号、269-287 頁。
- ⑫ リチャード・ジェームス、ガブリエル・ポールドウィン(近田政博訳)(2007)『効果的な大学院研究指導のための11の実践手法』メルボルン大学高等教育研究センター・大学院統括部編(翻訳中、別途配布)
- ⑬ 近田政博(2007)「事後アンケートの結果&修論作成ティップス(試作版)」高等教育基礎論(研究方法)授業配付資料(2007年7月18日)。

第3単元 組織的な教育改善への支援(FD、TA養成など)

- ⑭ 北野秋男(2003)「ティーチング・アシスタント(TA)制度の総合的研究－全国の22大学に対するインタビュー調査の結果を中心に－」『大学教育学会誌』第25巻、第2号、75-82 頁。
- ⑮ 名古屋大学高等教育研究センター(2005)『ティップス先生からの7つの提案:教員編、学生編、大学編、IT活用授業編』各12 頁(別途配布)

- ⑯ 近田政博(2007)「FDの取り組みをどう組織化するか」静岡県西部高等教育ネットワーク会議(2007年3月27日)
- ⑰ 近田政博(2007)「研究大学の院生を対象とする大学教授法研修のあり方」『名古屋高等教育研究』第7号、147-167頁。

第4单元 大学職員の能力開発への支援(SD)

- ⑱ 福留(宮村)留理子(2004)「大学職員の役割と能力形成—私立大学職員調査を手がかりとして—」日本高等教育学会編『高等教育研究』第7集、157-175頁。
- ⑲ 名古屋大学高等教育研究センター(2007)『ティップス先生からの7つの提案：教務学生担当職員編』各12頁(別途配布)
- ⑳ 中井俊樹・齋藤芳子(2007)「アメリカの専門職団体が描く学生担当職員像—学生担当職のための優れた実践の原則」『名古屋高等教育研究』第7号、169-185頁。

もっと調べてみたくなったら

第1単元 現代の大学生の学習状況・学習意識

- ・河合塾(2003)『学生による授業評価 事例研究会』報告書、平成15年7月(非売品)
- ・立花隆(2004)『東大生はバカになったか』文春文庫、378頁、570円
- ・溝上慎一(2004)『現代大学生論 ユニバーシティ・ブルーの風に揺れる』NHK ブックス、970円・平成16~18年度科学研究費補助金中間報告書(2005)(基盤研究C)『学生のキャンパスライフの実証的研究—21大学・学生調査の分析—』(研究代表者 武内清)、196頁(非売品)
- ・竹内洋(2005)「歴史のなかの学生文化」『IDE 現代の高等教育』No.473、7-13頁。
- ・名古屋大学高等教育研究センター編(2005)『初年次オリエンテーションを支援するスタディティップスの開発と活用に関する事業』成果報告書(非売品)
- ・名古屋大学編(2006)『生活状況調査報告書(第21回)』平成18年2月(非売品)
- ・全国大学生生活協同組合連合会(2007)『Campus Life Data 2004: 第41回学生の消費生活に関する実態調査(2006年10月実施)』(非売品)

第2単元 学生に対する学習支援(初年次教育、研究指導など)

- ・A.W.Chickering, Linda Reisser (1993), *Education and Identity*, Jossey-Bass, 542P.
- ・N. J. Evans, D.S. Forney, F.Guido-Dibrito (1998), *Student Development in College*, Jossey-Bass, 348P.
- ・William G. Perry(1999), *Forms of Ethical and Intellectual Development in the College Years: A Scheme*, Jossey-Bass, 285P.
- ・関西国際大学高等教育研究所(2003)『高等教育研究叢書』No.4「一年次教育と学習支援」171頁(非売品)
- ・AERA MOOK(2004)『勉強のやり方がわかる。』朝日新聞社、175頁、1300円
- ・関西国際大学高等教育研究所(2004)『高等教育研究叢書』No.5「初年次教育と第一世代問題」161頁(非売品)
- ・小貫有紀子(2005)「アメリカ高等教育における学習支援プログラムの基準と評価システム」『大学教育学会誌』第27巻、第2巻、81-87頁
- ・山田礼子(2005)『一年次(導入)教育の日米比較』東信堂、250頁、2800円
- ・M. Lee Upcraft, John N. Gardner, Betsy O. Barefoot *et al.* (2005), *Challenging & Supporting The First-Year Student: A Handbook for Improving The First Year of College*, Jossey-Bass, 607 P.
- ・E.T. Pascarella, P.T.Terenzini (2005), *How College Affect Students: volume 2: A Third Decade of Research*, Jossey-Bass, 827P.
- ・濱名篤・川嶋太津夫編著(2006)『初年次教育 歴史・理論・実践と世界の動向』丸善、3,600円
- ・Upcraft, M.L., Gardner, J.N., Barefoot, B.O.編(2007)(山田礼子監訳)『初年次教育ハンドブック 学生を「成功」に導くために』丸善、5,040円。

- ・名古屋大学高等教育研究センター編(2007)『特色 GP シリーズ⑥「名古屋新入生のためのスタディティップス」の開発』(近刊、非売品)。
- ・リクルート編(2007)「特集：初年次教育をどう位置づけるか」『カレッジマネジメント』145号、4-25頁(非売品)。

第3単元 組織的な教育改善への支援 (FD、TA養成、カリキュラムなど)

- ・E.L.ボイヤー(有本章訳)(1996)『大学教授職の使命』玉川大学出版部(原著 Scholarship Reconsidered: Priorities of the Professoriate の出版は1990年)、190頁、2200円
- ・名古屋大学高等教育研究センター編(2005)『特色 GP シリーズ③ 「ティップス先生からの7つの提案」の開発記録』199頁(非売品)
- ・平成17年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書(2005)『学生・教師の満足度を高めるためのFD組織化の方法論に関する調査研究』(研究代表者 夏目達也)229頁(非売品)
- ・有本章(2005)『大学教授職とFD アメリカと日本』東信堂、296頁、3200円
- ・吉良直(2005)「アメリカのティーチング・アシスタント制度と訓練・養成制度の研究—北東部5大学でのインタビュー調査結果の比較考察」『大学教育学会誌』第27巻、第2巻、88-96頁
- ・小笠原正明・西森敏之・瀬名波栄潤(2006)『TA 実践ガイドブック』玉川大学出版部、2,800円
- ・北野秋男編(2006)『日本のティーチング・アシスタント制度』東信堂、219頁、2800円
- ・名古屋大学高等教育研究センター編(2006)『ティップス先生からの7つの提案 IT活用授業編』、ダイテック、12頁→080-5124-9782(小倉氏)で購入可能
- ・名古屋大学高等教育研究センター編(2006)『特色 GP シリーズ④ 大学院生のための大学教員準備プログラムの開発：大学教授法研修会の記録』137頁(非売品)
- ・名古屋大学高等教育研究センター編(2007)『ティップス先生のカリキュラムデザイン』ダイテック、73頁→080-5124-9782(小倉氏)で購入可能。
- ・文部科学省『大学における教育内容等の改革状況について』
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/03/04032301.htm (2007年8月29日)

第4単元 大学職員の能力開発への支援 (SD)

- ・『IDE 現代の高等教育』(2002)No.439「大学のSD」、2002年5-6月号
- ・山本眞一編(2004)『SDが育てる大学経営人材』文葉社、325頁、3200円
- ・『IDE 現代の高等教育』(2005)No.469「SD/大学職員の能力開発」、2005年4月号
- ・山本眞一(2006)『大学事務職員のための高等教育システム論～より良い大学経営専門職となるために～』文葉社、150頁、1800円
- ・名古屋大学高等教育研究センター編(2007)『ティップス先生からの7つの提案 教務学生担当職員編』、ダイテック、12頁→080-5124-9782(小倉氏)で購入可能
- ・名古屋大学高等教育研究センター編(2007)『特色 GP シリーズ⑤「ティップス先生からの7つの提案 教務学生担当職員編」の開発』(近刊、非売品)